



有松まちづくりの会役員会（4月22日）

令和元年 5月1日
有松まちづくりの会

① 有松観光案内所の関わりについて(事業部)

NPO法人コンソーシアム有松(CAN)が運営している観光案内所への関わりについて、有松あないびとの会も含めた3者で打合せを行うことになりました。

② 岡家住宅暫定公開について(歴まち室報告)

市指定有形文化財の建造物の内部を見たいという来訪者の強い要望があり、名古屋市が空家となっている岡家住宅を借り上げ、暫定的に公開します。

公開日時は、土曜日・日曜日の10:30~15:30とし、6月1日から来年3月31日まで公開されます。

対応は、有松あないびとの会が行います。

③ 有松重伝建保存地区の防災計画について(歴まち室報告)

名古屋市は重伝建選定を受けた地区の保存・継承するための防災計画を策定します。そのための調査を今年度と来年度にわたり行いますので、ご協力をお願いします。

火災については、消防防災設備の調査、消火活動態勢の調査。地震については、建造物の分類化、限界耐力による耐震診断等を行います。

大高イオングリーンデーに参加（4月3日 有松あないびとり会）

「緑区の魅力を地元の皆様に発信する」大高イオングリーンデーに、有松あないびとの会が鳴海歴史倶楽部や大高歴史の会と共に参加しました。

子どもさんの元気なダンスや迫力の音楽ライブが行われたステージで、3団体ともスライドを使って紙芝居や名所案内をしました。また、ステージの周囲には名所パネルを展示し、緑区内の様々なパンフレットを配布して歴史ある緑区の散策を呼びかけました。

会場では有松絞りの体験で大きな鯉のぼりが作られ、有松で染められた後、大高イオンの空間を飾りました。新作有松グルメのスイーツや有松絞りの販売もされていました。



名所パネル

新年度「桶狭間塾」始まる（4月14日 桶狭間古戦場保存会）

令和元年度「桶狭間塾」開校式が、桶狭間公民館で塾生35名でスタートしました。開校に先立ち桶狭間古戦場保存会会長梶野泉さんから、平成から令和への改元の年、新たな気持ちで地域での学習を進めていこうと挨拶がありました。

講座は、桶狭間の合戦の流れや今川の歴史などを題材に行なわれ、予定時間をオーバーし白熱の中にも楽しい2時間でした。来年2月まで現地学習を2回含む7回実施されます。



開校式

第35代ミス絞りと、福男発表される（4月27日 絞会館）

絞会館において、「令和」を迎える初めてのミス絞り2名と福男1名の発表会が行われました。ミス絞りは1月中旬より募集を開始し、45名の応募者の中から4月21日の本選考会を経て、緑区在住の林佳歩さん（20歳）と知多市在住の田邊なおみさん（20歳）が選出されました。また福男は有松の金融機関にお勤めの野村洋貴（23歳）に決まりました。皆さん、一様に有松の絞りの良さ、古い町並みをPRしたいと意気込んでいました。



ミス絞り・有松福男

ありまつ公園の桜 二題

①ありまつ公園の桜

ありまつ公園の若き桜に花が咲きました。

この桜は有松の町並みが「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されたのを記念して、平成28年に植樹された木です。植樹された当時は高さが1m程度でしたが、現在は3m以上に育ち、立派な若々しい桜花をたくさん咲かせていました。

将来は、現在ある毎年立派な桜花を咲かす老木の跡を継ぐ二代目の「ありまつ公園の桜」に育つものと期待されています。



ありまつ公園の桜

②ウコン桜

有松小学校トワイライトルームの講座の一つに「有松を知ろう」というのがあります。過日、由緒あるウコン桜を知るため、「有松のウコン桜を見に行こう!」という講座を行いました。

有松のウコン桜は平成10年、双子の百歳姉妹として有名になったきんさんぎんさんが絞会館を訪れたときに会館駐車場奥にお手植えされた二本の桜です。淡い黄緑色の八重咲きで、高貴な花。

会館を訪れたとき、緑区の農家生まれのお二人が昔に戻ってくくりを実演されていたことが思い出されます。



絞会館駐車場奥

捕虜収容所の学習会と跡地見学会（4月21日）

昭和18年12月から終戦まで、名鉄有松駅近くに捕虜収容所があったことを知っていますか。

「捕虜収容所跡を残す会」の主催で、収容所の歴史を学び収容所跡を見学する会が、参加者60名程を得て棚橋家住宅で開かれました。

学習会では、実際に捕虜を見た地元の方からお話を伺いました。成田治さんからは、駅で200名以上の捕虜を見、日本式点呼で軍需工場にかり出されていたとの目撃証言をいただきました。当時小学2年生だった緒川文子さんは、国道1号線沿いの家から収容所が見えたことや母国に郵便物を出すため有松郵便局の前に行列ができていたことを話されていました。父親を戦争で亡くし残された家族は本当に悲惨だったと、話を締めくくられました。父親が収容所の嘱託医をされていた棚橋恭子さんは、父親と捕虜の軍医さんとの友情物語を語ってくださいました。最後に、地元の有松ですら収容所があったことを知らない人が多い、今後も話していきたいとおっしゃっていました。

見学会では、有松駅から歩いて10分程の日本車輛社宅の一角にある遺構を訪れました。水をくみ上げるポンプ小屋の基礎、レンガ積みの小さな壁が残されていました。終戦時米軍の撮影した収容所全景の写真を見ながら、当時の様子について伺いました。終戦時273名が収容され22名の方がなくなっている事や熱田の日本車輛の工場に毎日電車で運ばれていたことを知りました。参加者からは、終戦時捕虜への救援物資のパラシュート投下に関して、極彩色の落下傘が家から見えたとか捕虜の帰国時には救援物資を近隣に配っていたとかのお話が聞かれました。

この後一部参加者は、収容所の存在を広めるきっかけとなる短編小説「捕虜の居た駅」を書かれた直木賞作家城山三郎さんの終戦時の住宅跡地（現在中京競馬場敷地内）を見学しました。

「残す会」では、今後ポンプ小屋跡に説明プレート設置など名古屋市に働きかけていきたいと共同代表の馬場豊さんはおっしゃっていました。



学習会の様子（棚橋家住宅にて）



跡地見学会の様子



捕虜収容所復元図

旧みどりカーテン改築工事始まる

東海道と小学校への道の角にある旧みどりカーテンの改築工事が始まりました。家屋の周りに取り付けられた看板が町並みの景観にふさわしくないとして、所有者の舩屋さんが旧の建屋に改築されるものです。これにより有松東海道の景色も大幅に改善されることになります。

なお、中町の山田多江家住宅（戦前の建物）も外壁の板張りが古くなり、張替え・耐震工事が始まっています。



改築中の旧みどりカーテン

有松みやげ（お菓子）追加販売される

有松土産として既に「ときかさね」と「有松絞り一ひとめー」（グランパニエ製）がありますが、新たに5品追加され有松観光案内所で販売が開始されました。

これはNPO法人コンソーシアム有松が「有松には食べ物のお土産がありません」との理由で業者と共同開発した5製品で、いずれも絞り柄の箱に入っています。

商品名：令和、嵐、まつり（以上は都あられ）

有松絞（亀屋芳広）、しば（納屋橋饅頭）

有松観光案内所、グランパニエでご賞味ください。



有松みやげ(有松観光案内所)

催事・行事の予定

5月05日(日)	09:00	有松東海道青空市	有松商工会周り	青空市運営委員会
5月07日(火)	13:30	研修会	コミセン	有松あないびとの会
5月16日(木)	13:30	有松まちづくりの会	総会	絞会館
5月16日(木)	14:30	記念講演「頼山陽について」	講師：山根兼昭氏(頼山陽ネットワーク会員)	
5月17日(金)	13:00	NPO法人コンソーシアム有松	総会	竹田家三番蔵
5月18日(土)	10:00	町並み歩き「ふるさと有松を体感しよう」	東海道	有松あないびとの会
5月19日(日)	07:30	かえで道清掃	有松まちづくりの会	
5月19日(日)	午前中	学区一斉町美運動	各町内会	
5月20日(月)	18:00	有松町並み相談会	コミセン	
5月21日(火)	13:30	研修会	コミセン	有松あないびとの会
5月27日(月)	18:00	有松まちづくりの会役員会	コミセン	
6月1日2日	09:00	第35回	有松絞りまつり	有松東海道一帯 絞りまつり実行委員会

発行者：竹田嘉兵衛(有松まちづくりの会 会長)

編集者：加藤 一成(有松まちづくりの会 広報部員)

T・F 052-623-1676 090-4163-2671

E-mail katoisse@mc.ccnw.ne.jp

有松まちづくりの会は、ホームページを公開しています。

有松のまち

検索